

市民の世紀に向けて大学生協も脱皮を続けます！

全国大学生活協同組合連合会
会長理事 庄司興吉

皆さん、こんにちは。全国大学生活協同組合連合会会長理事の庄司です。

一昨年の金融危機が経済危機に深化しつつ世界に広まり、いたるところで深刻な状態をつくりだしています。中国など一部の国は危機を抜け出したともいわれていますが、こうした情報を良いことに、金融センターは性懲りもなく新たな投機の手段を考え出そうとしています。一時的な混乱など省みるにたらずというのがもともと市場原理主義の本質でしょうから、私たちもこれからも資本主義の実態を注視し続けなければならないでしょう。

これにたいして他方では、新興国をも含む主要国の政府が連携して経済に干渉しようとする、いわば国際ケインズ主義の動きも強まっています。金融や環境をめぐる国際会議がおこなわれ、金融規制や環境保護にかんする合意形成の努力が続けられていますが、一筋縄ではいかないようです。これまでの先進国による途上国支配や先進諸国間の利害対立が背景にある以上、努力はなお辛抱強く続けられなければならないでしょう。

しかしこの間に、2008年のアメリカの大統領選挙に次いで、2009年8月には日本で事実上戦後初めてともいえる政権交代も起こっています。米日の新政権も、実際に変革を実施しようとすると並大抵でないことは明らかですが、長い眼で見て成否を決めていくのは市民の支持でしょう。このほか、先進国のドイツ、新興国のインド、旧ソ連のウクライナなどに続いて、イギリスやアメリカなど、これからもいろいろな国での選挙がおこなわれていきます。こうした流れのなかで、中国やベトナムなども、普通選挙にもとづく明快な市民民主主義の導入を、早晚考えざるをえなくなるでしょう。

世界が市民社会化していくなかで、ますます注目されてくるのは、市民が共同で出資し、直接間接に経営にも関与する協同組合方式の事業です。資本力を持つブルジュワとしての市民の事業に、労働者は、労働組合をつくって対抗しつつ一般市民（シティズン）としての政治参加を要求するとともに、協同組合をつくって消費生活者としても対抗してきました。その協同組合方式が農業、漁業、中小企業、信用組合などにも広がり、ヨーロッパなどでは労働者協同組合が社会的事業にも取り組み始めています。

市民の世紀となつていかざるをえない21世紀のなかで、市民の事業としての協同組合がかつてなく大きな意味をもちはじめているのです。日本の大学生協は、第二次世界大戦後日本の市民社会再建の過程で生まれた、世界にも類例を見ない、学生中心の、大学全構成員による生活協同組合です。大学生活の基礎を協同組合方式で支える活動をつうじて、それを体験した学生を世に送り出すなど、その意義は、世界の市民社会化への大きな流れのなかでますます大きくなっています。こうした自覚をもって、これからも大学生協は、自らの現状に満足することなく、くりかえし脱皮して新しい姿を見せてゆきたいと思っています。

全国の組合員の皆さんには、あらためて「21世紀を生きる大学生協のビジョンとアクションプラン」をご覧になり、それぞれの持ち場で協同、協力、自立、参加の活動に加わって

ください。また、現在まだ大学生協に加わっていらっしゃらない方は、このページなどをつうじてあらためてその躍動的な姿をご覧になり、さまざまなルートでぜひ私たちの活動に加わってください。このページから私会長理事のホームページにもリンクすることができます。新しい時代のうねりを感じ取り、それぞれの身近なところから大きな新しい社会をつくってゆく動きに、ぜひご参加ください。

(大学生協連ホームページ「会長理事からのメッセージ」 20100220)